



# ★望洋会 会報誌★

～令和4年度 第10号 卒業特別号～

令和5年3月

発行責任者：

望洋会会長 浅岡 厚

## 祝 辞

望洋会会長 浅岡 厚



卒業生の皆さん、ご卒業 誠におめでとございます。春風さわやかなこのよき日に卒業式が無事に挙行出来ます事を、心よりお慶び申し上げます。

本日、ここに卒業式を迎えられるにあたり、卒業される皆さんはもとより、保護者の皆様の喜びもひとしおの事と心からお祝いの言葉を申し上げます。

このよき日を迎えられた喜びは、卒業される皆さんのたゆまぬ努力と共に、今日まで、温かく見守り支えて下さった御家族をはじめ、ご指導下さった諸先生方、また、すばらしい友だちの励ましなど、多くの方々の限りないお力添えがあった事にほかなりません。特に、多感で難しい時期に温かく導き育ててくださった先生方のご尽力にお礼と感謝の気持ちを心より申し上げます。

皆さんは、今日を限りに卒業し、其々の道に進まれるわけですが、これから先の将来や人生についてより一層深く考える事でしょう。

将来の夢や理想は、今はとても手の届かない遙か遠く高いところに置いてください。しかし、それに向かう為の道標とする段階的な目標はすぐ手の届く処に置きましょう。それをひとつずつ達成して行く事で、徐々にでも確実に夢や理想に近づいていける筈です。一歩ずつ成長して行く中、壁にぶつかり悩み苦しみ逃げ出しなくなる事もあるでしょう。それは神様が与えてくれた試練です。そんな時はこの言葉を思い出してください。「神様は人に乗り越えることの出来ない試練は決して与えない」と言う事です。

しかし、どんなに頑張っても自分独りでは、どうにもならないときは助けを求めてください。ご両親や友だちに相談してください。一緒に悩み協力してくれる人が身近に沢山いることを忘れないで下さい。試練は必ず乗り越えることが出来ます。皆さんには無限の可能性があります。

どうか建学の精神を忘れずに、命の大切さを考え、健康に気をつけて、夢に向かって、元気に羽ばたいてください。

結びに皆様方の更なるご活躍と東海大学付属市原望洋高等学校の益々の発展を御祈念申し上げます。望洋会を代表し、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

## 歩けば見えてくる

校長 田中 昇

青い空に流れる白い雲、風に揺れる若葉の間から優しい日の光が木漏れ日となって揺れている。まるで陽の光はいきものように足元にまとわりついてくる。首が痛くなるほど見上げるクスノキの巨木は学校のシンボルであり、私の小さな心を支えてくれる大好きな木である。

私とクスノキの出会いは望洋高校に赴任が決まり新天地である望洋に訪れた時である。そして忘れもしない望洋会との出会いは、くすのき周辺の整備作業だ。私より年かさの方たちが黙々と作業をしている。何も知らない私はこの会の主旨がわからずにいた。ひと汗かいて整然となったクスノキの下で飲むお茶は格別であった。会長はじめ会員の方たちが「付かず、離れず。」と言う思いを望洋高校に持ち続けていると会長が口にした時、望洋愛の心に感謝しました。継続される精神は四年が経つが色あせることはない。私もそろそろこの学び舎を去る時が来ている。望洋会の一員として望洋高校へ「付かず離れず」を持ち続けていきたい。

仏教に「歩けば見えてくる」という教えがある。私が望洋高校に着任してまだ日も浅い春。新緑の季節が訪れた。稲荷台通りのイチヨウ並木にも葉が繁り、ツバキ、ツツジの花が咲き、うぐいすや野鳥の声に朝の訪れを心地よく感じたのを覚えている。あの時、見慣れたなんでもない風景のように感じたが、毎朝かわる自然の変化を楽しく感じる事ができた。

4時起床、アパートから学校まで愛犬と散歩することも日課となった。私が単身赴任を決めた時、家族が愛犬を「連れて行ったら。」と言われ私と一緒に暮らすことになった。初めての道は遠く感じ視野が狭き感じたが、数週間で、ランニングやウォーキングする夫婦とあいさつを交わすようになった。図体の大きな私にとって、犬は不審者を払しょくさせてくれる大事なアイテムである。

望洋高校入口の旭日自工を左に曲がるとき、目に入るのが校名看板である。四つの株の花が迎えてくれる。信号を左に曲がって校門近くの路肩には花が咲いている。園芸委員が植えてくれたものである。校内に入ると、バスの運転手さんが、運行の始業点検をしている。中央の植木鉢に水をあげる。校内を一周し、学園の創立者松前先生の胸像前で今日

一日の学校生活の無事を祈る。人が集まれば、いろんなことがある。思い出したくない過去があったとしても、振り向かず悔やまず、前を向いて、未来に希望を持ちたい。毎日放課後には、何も異常がないことを確認してアパートへ戻る。私の身についた習慣であった。

四年間、私はいったい望洋高校のために何ができたか。ビデオやCDの早送りのように時間は早く過ぎた。私も人間だから、ふと寂しくなる時もある。後ろを振り向くと、今まで見えなかったことが見えてくることを感じた。近くにいるとなぜか素直になれない夫婦や家族のこと、寂しくなるから犬を連れて行くようにと言われた意味がわかる気がする。

センチメンタルに浸るのはこのくらいにして、職場ではどうだろうか。

手のひらを見て思うことがある。じっと見ながら目に近づけると、今まで見えていた指紋が見えなくなる。また離してみると見えてくる。歌の文句ではないが、近すぎて見えないもの、離れてみれば見えるもの、また感じるもの、生きて来てわかるもの、この先、人生を歩く中に見えて、わかるものがきつとある。私の生きた4年間は「日は好日」二度と戻らない人生の幸せである。春夏秋冬来ない年はな

かった。人間は、時間の流れの中で自身を見るとただ年を重ねただけではなく、成長を感じる。教員の道を歩き出した時、正直何をやっているのか、何をすべきなのか見えていなかった。東海大学と半世紀歩んできてやっとおぼろげに見えて来たものがある。学園の建学の精神にある「汝の希望を星につなげ」である。父がその昔「お前にもいつか分かる時が来る。」言っていたあの言葉が、時間の経過とともに、今やっとわかるような気がする。私も少しは成長したのかもしれない。

人生の中で、すぐわかるものと、すぐにはわからないものがある。すぐわからないものは生きる中に何度も何度も繰り返したりするうちに見えてくるものなのかと思う。そして今答えを出さなくてはいけないものはそう多くはない。四年間で多くの人との出会いから学ばせてもらいました。

結びに本校教諭出会った横山了先生、校長代理池田信一先生に心よりご冥福をお祈りします。

そして、望洋会会長であった中川義昭顧問、岡本照夫顧問、浅岡厚会長、私の市原のお姉さん濱田淳子さんに感謝申し上げます。

## 市原今昔物語Ⅱ「五井編」

二〇〇二年 代表役員 西村 和男

「五井」と言えば「小湊鉄道」だ。ローカル色満載。これを商品価値として全面に押し出している。あえてスピードアップせず、マイペースのスタイルが今の時代に逆いうけているようだ。小湊線の建設には、当時の陸軍鉄道連隊が活躍したとある。連隊の訓練と実習を兼ねて工事が進められた。多くの兵員と工事人の手を必要とした難工事であった。現在もその当時の素掘りの跡が残るトンネルも見られ、いかに人力で作り上げたかを思い浮かべることができる。

「市原」を語るに於いて欠かすことができないのが海苔の養殖だろう。特に五井・八幡地区で盛んに行われていた。シーズンになると海苔の干し場があちらこちらに見られ、風物詩であった。穏やかな海岸線はどこまでも続き、冬になると目の前に富士山が現れ、西の方角には夕陽の沈む景色が見られ、幻想的な風景を醸し出し、神秘的な美しさを描いている。

五井西地区は、海と川・里を併せ持った特

徴の地区である。生活の多様性を共有しつつ、それぞれ異なった文化圏が存在している。川の文化としては「西広板羽目堰」という千葉県指定有形文化財が西広に残されている。

里の文化としては、国分寺を中心とした台地の歴史が浮かぶ。市役所が現在地に移ったのは、市政後の事である。それまでは旧五井町役場を利用していたが、昔の木造校舎のような二階建の建物であった事を記憶している。

現市役所周辺は、古代史ロマンの溢れる地であるが殆ど手つかずの状態で現存保存されている。市教育委員会の管理下に置かれている祇園原遺跡は、三千から五千年前の歴史が確認できる。市原は、縄文中期から近代までがこの台地で確認できるのである。

令和四年十一月二十日にオープンした「市原歴史博物館」の展示物の奥深さを知っている。隣接する「市原歴史博物館体験館」では是非とも実感して頂きたい。

七重の塔や朱色の建物は、当時の人々にはどのような映っていたのだろうか。千年前の

市原は、今以上に海や川が身近にあり、そこに輝く建物の影は、さぞ驚きであったと思われる。

更に、今昔物語の区切りを五十年と仮に区切ると海に隣接するコンビナートの歴史を伝えたい。「三井造船」が千葉での歴史を閉じている。造船技術が千葉で生まれ、新たな時代が来ると期待されて五十年。一つの歴史が終わった。コンビナートの変化も日進月歩のようである。次の時代を担うのは何か。夢と期待を育むコンビナートでもある。

古の歴史と田畑の広がる里・海・川それぞれの文化が生まれ、様々な人々が活躍する街。それが「五井地区」である。



我が街市原には、素敵な所がたくさんあります。天気の良い日に是非、歴史を感じながらお出かけしてみてください♪

## ★親睦ボウリング大会



11月5日(土)現役後援会の方々と望洋会8名が市原市にあるラウンドワンにて、親睦ボウリング大会を開催しました。ルールは3人1組、一人3ゲームを投球し、個人とチームで競い合うものでした。

世代を超えて楽しめるボウリングを通して、有意義な交流を深める

### 11月6日(日) 楠下整地作業



### ～令和4年度 後半の行事～

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 9月 9日(土)～10日(日) 研修旅行(中止) | 11月 6日(日) 楠下整地作業     |
| 10月22日(土)～23日(日) 建学祭(自粛) | 11月23日(祝水) 望洋会ゴルフコンペ |
| 11月 5日(土) 親睦ボウリング大会      | 3月 4日(土) 卒業証書授与式     |

※感染状況により延期あるいは、変更・自粛となった行事があります

## 望洋会ゴルフコンペ



11月23日(祝水)東金市にある東千葉カントリークラブにて、望洋会ゴルフコンペが開催されました。あいにくの雨にも負けず、9組32名が元気にスタートしました。優勝者は高橋幸司さん。多くの出席者の中には以前に望洋高校で事務をしていた二人や甲子園のヒーロー達(野球部の卒業生)もたくさん参加し、大会を盛り上げてくれました。

三年ぶりに大会を開催することができ、ゴルフ好きな member の会話は大変弾み、楽しい時間を過ごしました♪

### ～編集後記～

前号より月日が経ち、『withコロナ』と言われるようになって、少しずつではありますが、外出できる機会も増えてきましたので、今回の行事を通して、久しぶりに会えた時はやはり嬉しく、お互い元気でいられた事に感動がありました。

やっと日常生活が戻りつつある時に田中校長先生が定年を迎えられます。市原望洋高校へ赴任されてから間もなく台風へ遭い、断水や停電が続いた大変な最中、水浸しになった校舎の清掃を率先され、早期授業再開ができるようにして下さいました。また、楠下整地作業にも早朝より参加され、気持ちよく生徒が学校生活を送れるようご尽力を頂きました。先生とはもっとたくさん触れ合いたかったのですが、コロナ禍でなかなか叶わず、寂しい時間もありましたが、定年後も望洋会としてお付き合い頂けたらと思います。

広報部一同📷